森ゼミ
morisemi

DX実践I (第4回) 生成AIを活用した調査準備

2025.10.08

本日の内容

1. 導入：授業のゴールとAI活用のおさらい
2. ヒアリングの手法：良い質問をAIと作る
3. アンケート設計：調査の骨子をAIと作る
4. 課題抽出の考え方：仮説をAIと立てる
5. まとめ：次回のフィールドワークへ

01

1. 導入

授業の位置づけとゴール

- 商店街フィールドワークに向けた**実践的な準備** を行う
- 生成AIを**「思考を補助する道具」**として使いこなすスキルを習得する
- 本日の成果物は**次回の調査活動で実際に使用** します

生成AI利用時のおさらい

👍 積極的に活用しよう (Do)	👎 これは避けよう (Don't)
• 壁打ち相手としてのアイデア出し	• 出力の**鵜呑み・コピペ**
• 面倒な作業の自動化・効率化	• 個人情報や機密情報の入力
• 多角的な視点の獲得	• **著作権・倫理** の無視

02

2. ヒアリングの手法

良い質問 vs NG質問

相手から深い情報を引き出すためのポイント

✅ 良い質問 (Open Question)	❌ NG質問 (Closed / Leading)
• 「**普段**、お店のどのような点に課題を感じますか？」	• 「人手不足で困っていますよね？ (誘導)」
• 「この商店街の**魅力**は何だと思いますか？」	• 「売上は上がっていますか？下がっていますか？ (単純な二択)」
• 「もし**改善できる**としたら、何を望みますか？」	• 「DX化やIT導入は進んでいますか？ (相手が答えにくい)」

【演習】AIでヒアリング項目を作成する

商店街の店主向けに、現状の課題を引き出す質問を5つ作成してみましょう

• プロンプト例:

• あなたはプロの経営コンサルタントです。商店街の活性化に向けた調査のため、飲食店の店主に対してヒアリングを行います。現状の経営課題について、相手が話しやすくなるようなオープンクエスチョンを 5つ作成してください。

• 出力例:

• 1. お店を運営される中で、**特にやりがいを感じる瞬間**はどのような時ですか？

• 2. 逆に、日々の営業で「**もっとこうだったら良いのに**」と感じる点はありますか？

• 3. お客様とのコミュニケーションで、**特に心がけていること**は何でしょうか？

• 4. この商店街で商売を続ける上で、**一番の魅力と課題**は何だとお考えですか？

• 5. 5年後、10年後を見据えた時、お店や商店街が**どうなっていたら理想的**ですか？

03

3. アンケート設計

アンケート設計の基本原則

時間と設問数	設問の順序	プライバシー
3分以内 設問数は**10問**以内が理想	答えやすい質問から始め 最後にデリケートな質問を配置	**個人情報の取得は最小限** に 匿名性を確保し、目的を明記

【演習】AIでアンケート骨子を作成する

1. 目的と対象者を定義する
2. AIにたたき台を作成させる
3. **バイアス** や**誘導的な表現** がないかチェック
4. 設問の順序を調整し、最終化する

04

4. 課題抽出の考え方

課題を構造化する「一次仮説フレーム」

誰が	どの場面で	何に困っている	それはなぜ	どんな影響がある
来街者（観光客）	平日の昼間	休憩できる場所がない	空き店舗が多い	滞在時間が短い
地域住民	雨の日	魅力的なお土産がない	店主の高齢化	リピートに繋がらない

05

5. まとめ・次回への接続

本日の成果と次へのステップ

Step1: 成果物の保存
作成した**ヒアリング項目** と**アンケート骨子** を班の共有フォルダに保存する

Step2: ブラッシュアップ
次回の授業までに、AIの出力結果を元に班で議論し、**調査計画を具体化** する

Step3: 調査実践
完成した計画書に基づき、商店街での **フィールドワークを実施** する

倫理的な配慮に関する Q&A

Q. 調査で個人情報を聞いても良いですか？

A. 原則として避けるべきです。年齢層や性別など、どうしても必要な場合は **選択式** にし、**同意** を得た上で、**匿名で統計的に処理** することを明確に伝えてください。

Q. お店の写真を撮っても良いですか？

A. 必ず**許可**を得てください。無断での撮影はトラブルの原因になります。人も物も、撮影前の一言が重要です。

Q. AIの作った文章をそのまま使って良いですか？

A. いいえ、**必ず自分たちの言葉で再構成** してください。AIの出力はあくまで草案であり、内容の正しさや適切さを判断するのは **皆さん自身の責任** です。


森ゼミ
morisemi

令和７年１０月８日（水）

教育プログラムアンケート

名前：

文部科学省受託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の一環として、地方における専門学生たちの地元でのキャリア形成や就職後の活躍に向けた教育プログラムを開発しています。この教育プログラムをよりよいものにしていくため、アンケートにご協力ください。なお、皆さんの学習活動や成績評価などで不利になるようなことはありません。

以下に関して、該当する番号に〇をつけてください。

A. 自分の将来の進路について

①私は将来、地元（香川県）で働くことに興味がある。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

②地元の企業には自分の希望する仕事やキャリアの道があると感じる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

③自分の進路を考える上で、地元の企業や産業についてもっと知りたい。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

④地元の企業でキャリアを積むことに価値を感じる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑤あなたが「地元」や「地元以外」で働くことに感じるメリットや魅力はなんですか？

＜地元で働くこと＞

［　　］

＜地元以外で働くこと＞

［　　］

裏面に続く

B. 自分の性格や姿勢について

⑥他者の話を最後まで丁寧に聴き、自分の考えを分かりやすく伝えられる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑦やったことのないことにも自らやってみようと思える。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑧失敗やわからないことがあっても、まずは工夫して自分でやってみようと思える。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑨聞いた情報や調べた情報をそのまま使うのではなく、自分でかみ砕いて判断できる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑩チームメンバーと協力して作業を進められる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑪物事がうまくいかなかったとき、どうすれば解決できるか振り返ることができる。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑫自分の得意なことや苦手なことを理解している。

5	4	3	2	1
そう思う	まあまあそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

⑬「社会に出てから役立つと思う、自分の強みや伸ばしたい力」を教えてください。

[　　]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

授業終了後アンケート（受講者用）

本日の実習は、文部科学省受託事業「香川県地域キャリア形成のための双方向型教育モデル開発事業」で開発した教育プログラムの一部です。この教育プログラムをよりよいものにしていくため、アンケートにご協力ください。

以下の質問に該当する番号に〇をつけてください。

質問１　本日の授業の内容は理解しやすかった。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問２　本日の授業内のワークは、理解を深めるのに役立った。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問３　本日の授業の内容は、スキルとして今後の学習や課題に役に立つ。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問４　教師の説明はわかりやすかった。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問５　資料や教材はわかりやすかった。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問６　本日の授業全体に満足している。

とても思う				全く思わない
5	4	3	2	1

質問７　本日の授業で『特に印象に残ったこと』や『ご感想』をご記入ください。

_____

_____

質問８　改善してほしい点や要望があれば教えてください。

_____

_____

ご協力ありがとうございました。

令和 7 年 10 月吉日

教育プログラム受講者

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
香川県地域キャリア形成のための双方向型教育モデル開発事業
事業責任者　河野　啓郎
（受託法人：株式会社穴吹カレッジサービス）

研究参加および同意書ご記入のお願い

弊社は、文部科学省より委託を受け、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」を運営しております。若年層の県外流出に伴う、地方での人口減少は深刻な課題となっています。本事業では、『香川県地域キャリア形成のための双方向型教育モデル開発事業』として、情報系・情報ビジネス系の専門学生、地域の中小企業を対象とした、「『就職・採用』→『育成・定着』→『活躍』」の理想的な人材サイクルの形成を目指した教育カリキュラムを開発します。地元キャリア形成の意識醸成や非認知スキルの向上など、実証研究を通じて、職業人材の養成機能の強化・充実を目指します。

本研究にご理解の上、協力にご同意いただけましたら「同意書」にご署名をお願い申し上げます。

記

研究目的：香川県地域キャリア形成のための双方向型教育モデル開発
実施内容：業務改善案 PBL（講義・実習）の開催
実施日時：令和 7 年 10 月 8 日（水）11:10～12:40

確認事項
(1)アンケートおよび自己評価シートの分析・利用
(2)事業 PR 動画制作に使用する写真・動画撮影

本授業の様子を撮影し、文部科学省の事業 PR 動画として使用させていただきます。事業 PR 動画は、文部科学省のホームページ「専修学校 #知る専（https://shirusen.mext.go.jp/）」及び YouTube「知る専チャンネル」（https://www.youtube.com/@知る専チャンネル）において公開される予定です。

※本研究の結果は、匿名化した上で適切に保管し、本研究以外の目的には使用いたしません。
※同意は任意です。同意されない場合でも講座の受講には支障がありません。

以　上

［本件に関するお問合せ先］
株式会社穴吹カレッジサービス 教育事業部　担当：豊島・中村
〒760-0022 香川県高松市西内町 5-11　TEL087-823-0303　FAX087-811-4189
E-mail Yosuke-toyoshima@anabuki.gr.jp

株式会社穴吹カレッジサービス殿

同 意 書

「香川県地域キャリア形成のための双方向型教育モデル開発事業」の協力者となることについて、
十分な説明を受け、納得できましたので、ここに同意し、署名します。

□ (1) アンケートおよび自己評価シートの分析・利用
□ (2) 事業 PR 動画制作に使用する写真・動画撮影

令和　　年　　月　　日

本人署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿